

## 2023（令5）年度 入学宣誓式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。またご父母、ご関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。本日の新年度開始に際して学部新入生並びに大学院入学者をお迎えして入学式を挙げることは京都薬科大学にとって大きな喜びであります。ご入学に際し、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

京都薬科大学の建学の精神は『愛学躬行』（学問を愛し、自ら実践する）です。学部の皆さんはこれからの6年間で薬学を含む自然科学の精妙な理（ことわり）を学び、自らの手を動かし（技）、心と体で大学の学びを体得してください。大学院の皆さんは、学部で経験した研究をさらに自身のアイデアで深め新たな学術の進展に寄与する研究に邁進してください。これからの6年間あるいは4年間で皆さんにとってかけがえのない素晴らしい時間になるはずですよ。

21世紀における科学技術の飛躍的な進歩にもかかわらず、治療法がない疾患や感染症はまだ多く残されています。様々な種類のがん疾患をはじめとして、新型コロナに代表される新たな感染症、アルツハイマー病をはじめとする脳疾患や神経疾患に対しても私たちはいまだ有効な治療法を持っていません。

京都薬科大学における6年間の学びは、このような現実に対応できる薬剤師となるための基礎を作るためのものです。国家試験に合格し薬剤師として様々な形で社会への貢献を始めるために必要な知識や実践は大学で十分習得できます。しかし、日々更新される学術的知見の蓄積にきちんと対応し、社会で認められる薬剤師になるために必要かつ十分な知識と経験は、卒業後も自己研鑽で学び取っていかねばなりません。そのための基盤を作るのが大学での学びです。学部で得られた知識と経験を学術的に昇華させ、広く世界に通用する知見とするのが大学院での学びです。

大学での学びがこれまでの学びと大きく異なる点は、答えのない問題に向きあうことです。高校までの学びにおける問題には必ず正解がありました。しかし、大学で向き合う課題にはその解決のために何が問題なのかをまず見つけなければなりません。しかも、問題の解決に必要な基礎的知見がすでに得られているとは限りません。正解が一つだけ存在するわけではないのです。一つの例を挙げます。19世紀半ばロンドンでコレラが大流行しました。その当時、細菌の存在は知られていませんでした。つまり、正しい原因には誰もたどり着けないうちに、様々な説が提案されていました。圧倒的に有力な説が、悪臭が原因であるとする瘴気説でした。そのような状況で、コレラの発生状況のデータ解析から、コレラの原因が汚染された水であることを主張したのがジョン・スノーという麻酔医師でした。今では、統計学・疫学の有用性を示す最初の代表例として説明されることが多いのですが、当時は全く相手にされず認められるのに20年以上かかりました。皆さんがこれから取り組む課題がこのような問題解決を必要とする可能性を心にとめておいていただければと思います。

一方で、大学時代は自己の内面に向き合い自分でも気付かなかった新しい側面を見つけるのに最適の時期でもあります。そのために、勉学はもちろんですが今までできなかったいろ

んな活動にチャレンジしてください。クラブ活動やボランティア活動であってもアルバイトでもかまいません。海外を自分自身で経験するのもいいでしょう。また、今まで縁のなかった様々なジャンルの読書にもトライしてください。大学院に進学される皆さんには、在学中あるいは修了後に海外の研究室を経験することを強く勧めます。研究に対する思考回路の違いを実感されるのではないかと思います。ここで、私から一つお願いがあります。学部は6年、大学院は4年で終わってください。周りに流されず、自分なりのやり方で各学年を一つずつ確実にクリアし、新しい課題に向きあう6年間あるいは4年間を過ごしてください。本学のすべての教職員はそのための援助を惜しみません。

我が国の人口構成の変化と情報化やAI技術の飛躍的進歩に伴い、医療界もこれから大きく変貌すると予想されています。皆さんが卒業する6年後には、デジタル化時代に即した新しいスキルとハートを持った薬剤師、ヒトと病気に向き合う薬剤師、チーム医療で薬の専門家として認められる薬剤師、が求められているでしょう。

4年後、6年後に皆さんが晴れやかな笑顔で学位授与式に臨まれるときを楽しみにしています。

本日はご入学、誠におめでとうございます。ようこそ京都薬科大学へ。

2023年4月1日  
京都薬科大学長 赤路健一